

二周め 令和四年

森野 水琴

令和四年四月

今月から二度めの小学生になった。とはいえ義務教育ではないので、通学する必要はない。六年前の年賀状に

一周六十年のマラソンコース 二周めに突入しました 三周めを目指します

と書いた記憶がある。二周めも十分の一が過ぎたことになる。思いつくまま筆を進めていくつもりである。

令和四年七月

昨年の四月から年金暮らしを始めて、ゆつくり一年経過した感じがする。なに二年目の今年はもう三か月経ってしまったかと驚かされる。

月に一度は書きたいものと連載しながら、七十五日経過のメールを受け取り、あわてて更新する日々。気が付くと連載ものが増えてしまい、月刊誌から季刊誌になりそうな状態。焦らず書き続けよう。

令和四年七月二十七日

ツイッターなるものを始めてみたら、ペンネームの「森野水琴」でグーグル検索すると一番目にヒットするようになった。

昨日、何気なく拙著「美文字の魔法」で検索するとトップページの五番目にヒットした。

気を良くしてほかの作品も検索してみると「琴線 令和四年」と「天上の兄」が、それぞれ一番目にヒットする。

とたんに意欲が湧いてくる。

令和四年八月

投稿作品が三十二作になった。ジョギングしながら作品のタイトルを五十音順に思い出していたが、何度試しても一作足りない。

帰宅して作品一覧のエクセルファイルで確かめたら「フランス語と私」をカウントしていなかった。

人数をカウントする時に、自分を数えていないようなものと苦笑したが、それだけフランス語と一体化しつつあると楽観している。

令和四年九月

北海道の稚内で行われた「わっかない平和マラソン」を完走して「海が泣く」という作品を書いた。短編で完結しているのだが、大きなテーマでもあるので、不定期に更新していくことにした。

スタート地点の宗谷岬から樺太が見えた。あまりの近さに恐ろしくなった。今こそ書いておかねばとの思いになる。

令和四年十一月三日

文化の日である。そして私の誕生日。よわいを重ねて六十七歳になった。

あと五十三年で百二十歳。二度目の還暦になり、本作も『三周め』にリレーする。

七十歳まではランニングのタイムも練習次第で記録更新できるらしい。それ以降は練習しないと落ちる一方で、維持するために練習するのだと聞いたことがある。

執筆は気長にマイペースで書き続けていくつもりである。

令和四年十二月

一月から投稿を始めて、あわただしく時が流れた感じがする。

二週間に一度のコンテストは刺激的で、何とか応募が続けられた。

長文が苦手な私には、百文字以上で応募できるコンテストは有難い。

本作も「今日から私は」というお題の応募作である。

本作は今月で完結とし、来月からは「二周め 令和五年」を連載開始するつもりである。